

山陽小野田市教育委員会教育長賞

「災害への考え」

山陽小野田市立高千帆中学校 2年 ^{ふくだ}福田 ^{あやめ}彩萌

最近、日本のあちこちで頻繁に地震が起こっている。体を感じないような小さなものから震度五程度の大きなものまであり、ネット上ではこれは南海トラフ地震の予兆ではないかと不安視する意見もある。私自身も、小さな地震が続いていると大きな地震が来る前触れではないかと感じてしまう。もし自分の住んでいるところで大きな災害が起きたら、私はどうすればよいのだろうか。

「防災」という言葉は災害が起きたときに自分の命を守るために必要な準備をすることだと理解している。災害時に自分や家族に何が必要になるか考えて防災グッズを準備したり、ハザードマップを確認したり、災害時の内容別に避難場所を確認したりすることも大切だろう。被害状況によっては、準備したものが使えなかったり、道路が寸断されて移動が困難だったり想定外のこともあるだろうが、それも含めて想像力をふくらませて、できる範囲で準備するしかない。

ほかに準備できることを考えたとき、私は社会の授業で学んだ「共助」という言葉を思い出した。「共助」とは地域の人々と協力し合うことだ。災害が起きた際に、地域の人々と協力し合うことができるかどうかは普段からのコミュニケーションにかかっていると思う。災害時に見知らぬ人と協力するよりかは日頃から挨拶を交わしている人の方が、いざという時に助け合いや協力がしやすくなると思う。

一学期に職場体験で市民病院を訪れた際、私たちを案内してくれた総務課の

方が、すれ違う医師や看護師に「お疲れ様です」と声をかけている光景を目にした。このような挨拶を交わすことで、自然と人とのつながりが生まれ、信頼関係が築かれていくことを実感した。挨拶という小さなコミュニケーションが、普段からのつながりをつくり、災害時には大きな助け合いの基盤になるのだと思う。

私は祖母と一緒に住んでいることもあり、近所の人とのかかわりが多い。私の名前を呼んでくれたり、下校時に声をかけてもらったりする。小学生の時には地域の人たちとの行事も多かったし、登下校の見守りなどもしてもらった。このような地域の人々とのつながりを、私たちの世代も受け継いでいかなければいけないと思う。

災害が起きた時、最も大切なのは「自分の身を守ること」だ。我が家のルールは「再会を信じて、自分の命を最優先にすること」。これができた後は、家族で助け合い、自分に少し余裕ができたなら、共助にも目を向けたい。災害はいつ来るのかわからないが、準備は今からでも始めることができる。少しでも準備をしておくことで災害時に冷静に行動できる可能性が高まる。自分や家族を守るための準備に加え、地域の方々との小さなコミュニケーションを大切にし、もしもの時に備えていきたい。

